

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】令和 1 年 7 月 4 日 (2019.7.4)

【公開番号】特開 2017-23687 (P2017-23687A)
 【公開日】平成 29 年 2 月 2 日 (2017.2.2)
 【年通号数】公開・登録公報 2017-005
 【出願番号】特願 2016-10309 (P2016-10309)
 【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 0

【手続補正書】

【提出日】令和 1 年 5 月 30 日 (2019.5.30)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、
 遊技者が操作可能な操作手段と、
 所定期間内における前記操作手段の操作に基づく受付可能回数を決定する回数決定手段と、

前記回数決定手段によって決定された前記受付可能回数の範囲で前記操作手段が操作されたことに基づいて、特定演出を実行する特定演出実行手段と、を備え、

前記回数決定手段は、前記特定演出と異なる前記所定期間内において実行される演出態様に応じて、いずれの前記受付可能回数に決定するかの決定割合を異ならせ、

前記特定演出実行手段は、

前記操作手段が操作されるタイミングに応じて前記特定演出を実行するか否かの割合を異ならせ、

前記受付可能回数の残り回数が所定回数である場合は、前記所定回数でない場合と比較して高い割合で前記特定演出を実行する、遊技機。

【請求項 2】

前記操作手段の操作を遊技者に促す演出および前記操作手段が操作された場合に実行する演出を含む操作演出を実行する操作演出実行手段をさらに備え、

前記特定演出実行手段は、前記操作演出に対応する操作に対しても前記受付可能回数を減算し、

前記回数決定手段は、前記操作演出が実行される場合には、前記操作演出が実行されない場合よりも多い受付可能回数を決定する、請求項 1 に記載の遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 6】

(1) 遊技者にとって有利な有利状態（たとえば、大当たり遊技状態）に制御可能な遊技機（たとえば、パチンコ遊技機 1、スロットマシン）であって、

遊技者が操作可能な操作手段（たとえば、スティックコントローラ 3 1 A、トリガボタン、プッシュボタン 3 1 B）と、

所定期間（たとえば、1 回の変動期間）内における前記操作手段による操作に基づく受付可能回数（たとえば、1 0 , 1 5 , 2 0 , 2 5 回のいずれか。他の回数、たとえば、5 回 ~ 9 9 回のいずれかであってもよい。）を決定する回数決定手段（たとえば、演出制御用 CPU 1 2 0、図 1 6 のステップ S 5 4 5、図 1 8 の一発告知演出決定テーブル参照）と、

前記回数決定手段によって決定された前記受付可能回数の範囲で前記操作手段が操作されたことに基づいて、特定演出（たとえば、一発告知演出。大当たりとすることが決定されている場合に実行される演出のみを含むことに限定されず、はずれとすることが決定されている場合に実行される演出を含むようにしてもよい。）を実行する特定演出実行手段（たとえば、演出制御用 CPU 1 2 0、図 2 1 のステップ S 7 4 4）と、を備え、

前記回数決定手段は、前記特定演出と異なる前記所定期間内において実行される演出態様（たとえば、リーチ態様、予告態様）に応じて、いずれの前記受付可能回数に決定するかの決定割合を異ならせ（たとえば、図 1 8 の一発告知演出決定テーブルにおいて、操作予告演出の実行が有る場合および無い場合、ならびに、リーチとする場合および非リーチとする場合、ならびに、第 1 特別図柄の変動表示が実行される場合および第 2 特別図柄の変動表示が実行される場合、ならびに、大当たりとする場合およびはずれとする場合で、操作可能回数の決定確率が異なる。）と、

前記特定演出実行手段は、

前記操作手段が操作されるタイミング（たとえば、操作可能回数の残り回数が所定回数のタイミング。リーチ後のタイミングなど操作可能回数に関連しないタイミングであってもよい。）に応じて前記特定演出を実行するか否かの割合を異ならせ（たとえば、図 2 1 の一発告知演出実行テーブルで示されるように、残りの操作可能回数が 0 回、7 回のときはその他の回数であるときよりも一発告知演出の実行確率が高い。）と、

前記受付可能回数の残り回数が所定回数（たとえば、0 回、7 回）である場合は、前記所定回数でない場合と比較して高い割合で前記特定演出を実行する（たとえば、図 2 1 の一発告知演出実行テーブルで示されるように、残りの操作可能回数が 0 回、7 回のときはその他の回数であるときよりも一発告知演出の実行確率が高い。）。